

号外

武蔵野市議会議員
フカキミの

深田貴美子 《いっぽいっぽ通信》

——市長への要望編——



「子どもは票にならないから、後回しでいいよ」(※プレストン効果)——日本はやさしくない国でした。子どもたちや若い人たちが、夢をもって輝ける社会を創りたい。そのためには、成長の過程で、その時、その時代を大切に丁寧に暮らせる環境を創りたいですね。

平成20年のリーマンショックの影響で、市の歳入も大きな影響を受けました。一方で新型インフルエンザの懸念や、地球温暖化による異常気象、高齢化に伴いひとり暮らしの高齢者の方の増加など、市民の命と健康、安全にかかわる課題こそ、公共が担う責務です。

国の補正予算が見込まれる今こそ、子どもたちの未来のために、みなさんとご一緒に実現を目指します。

※プレストン効果……アメリカの人口学者サムエル・プレストンが、1980年代に「少子高齢化社会では政界や産業界の関心が多数派の高齢者に向かいやすい。割を食うのは少数派の若者だ」と指摘(日経新聞、2009年5月8日朝刊より)

1 予防接種の〈公費負担〉 100%を求めます!

▶Hib (ヒブ=Haemophilus influenzae b型)
1回7,000円×4回=合計28,000円

Hib (ヒブ=Haemophilus influenzae b型)とは真正細菌であるインフルエンザ菌の略称で、肺炎・敗血症・喉頭蓋炎などさまざまな感染症を引き起こし、なかでも重篤な感染症がHibによる細菌性髄膜炎(Hib髄膜炎)です。細菌性髄膜炎による日本の患者数は年間で約600人、5歳になるまでに2,000人に1人の乳幼児がHib髄膜炎にかかり、治療を受けても約5%(日本で年間約30人)の乳幼児が死亡し、約25%(日本で年間約150人)に知的障害などの発育障害や聴力障害などの後遺症が残ります。世界100か国以上で接種されており、日本では、2008年12月に任意接種(有料)が可能となりました。

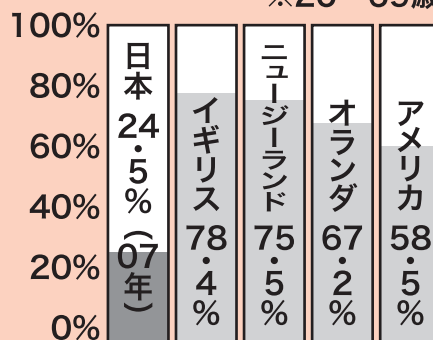
▶インフルエンザ=1回3,000円~6,000円×2回

「インフルエンザは風邪の一種」と言われますが、罹患すると極めて重いことに加え、2009年には豚由来の新型インフルエンザのパンデミックもあり、極めて危険なウイルスです。接種料金は医療機関によって異なります。

▶子宮頸がんワクチン=50,000円
=初回20,000円+15,000円×2(2回目、3回目)

子宮頸がんは特定のウイルス感染によるもので、年間に1万人以上が発症し、そのうち約3,500人が命を落としています。そもそも日本における子宮頸がん検診は、受診率が20%程度です。受診率の向上を図るとともに、感染前のワクチン接種は、発症予防に極めて効果が高いと言われています。国は2009年に「子宮頸がん予防ワクチン」接種を認可しましたが、高額なために多くの自治体で接種に対して〈公費助成〉をはじめました。

子宮頸がん検診受診率 ※20~69歳



14歳までの接種+検診で、大切な多くの命を救うことができます。

2 早急に市内小中学校17校の 普通教室の〈冷房化〉を求めます!

今年の夏は連日35度を超える記録的な猛暑でした。教育委員会9月2日付市内小中学校教室の計測によれば、小学校で33.7℃、中学校で34.9℃と報告されています。もはや扇風機と根性論だけでは乗り切ることはできません。この「多摩格差」を是正し、学習環境のトータルな改善を求めます。

▶全校冷房化を求めます

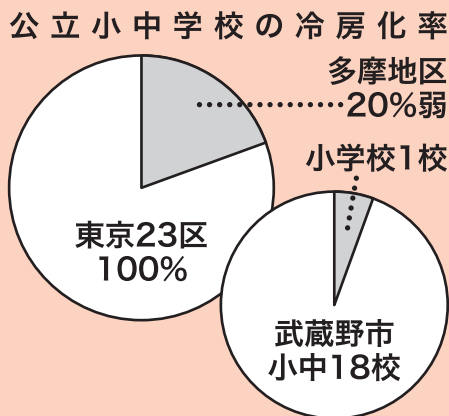
東京23区では100%の冷房化が達成されていますが、多摩地域では20%弱に過ぎず、市内では、小学校1校だけの実施という現状です。子どもの学習環境に格差があってははいけません。

▶「洋式トイレ」の設置普及を要望します

ライフスタイルの変化にともない、いまやほとんどのご家庭が洋式トイレになっています。和式トイレになじみず、我慢する子どももいます。発達障害の子どもにとっても配慮が必要です。学校トイレの半数を目標に、設置を求めます。

▶「おいしい水を学校でも飲める」よう整備します

屋上の貯留タンクに溜めずに、水道管から直接飲めるよう整備します。水分補給は、熱中症対策にも効果的です。



子どもの学習環境に
地域格差があつては
いけません！

3 さらなる「保育の質」の向上と 「多様な」保育の実現を求めます！

働き方も多様になれば、育て方も多様になります。多様なライフスタイルに対応することともに、子どもたちの健やかな育ちも絶対に守りたい！ 武蔵野が大切にしてきた「保育の質」をさらに高めることは、マストアイテムです。武蔵野では、0歳から18歳までのトータルな子どもの育ちを応援するために、「財団法人子ども協会」を設立しました。

▶「保育所の増設」を求めます

現在、市内の保育園待機児童数は、81名で早急な対応が必要です。リーマンショック後、母親だって働かざるを得ないご家庭も増えています。また、そもそも働くことは、それぞれに認められた権利でもあります。0～2歳児保育への保育士シフトの見直しや、駅近の保育施設の誘致等の要望を続けます。

▶子育て世代が孤独を感じない 「在宅子育て支援の充実」を求めます

「0123」に家庭支援センター的機能を加えたり、子育て中の親同士で集まれる「ひろば」事業の応援を通じて、深刻な「SOS」になる前に、気軽に相談できるシステムを創ります。多目的に活用できる一時預かりの機能や、子どもがのびのび遊べる公園の設置など、地域に偏りのないよう要望します。

▶「無認可保育園等を利用される子どもたちに 保育料の助成」を求めます

認証保育園等に通園するご家庭への助成と同様に、東京都への届け出ている無認可保育所やベビールーム利用者への保育料助成を求めていきます。

▶「病児・病後児保育の拡充」を求めます

大事な会議の時に限って、子どもは熱をだすものです。医療関

係機関のご協力を得て、市内2か所（境・三鷹北口）に「病児・病後児保育」を実現しました。今後は、吉祥寺駅周辺に設置を求めていきます。

就学前児童の在宅・通園先区分

5歳		
4歳	保育園等	幼稚園等
3歳	1687人	1831人
2歳	在宅保育	
1歳		
0歳	2384人	

いよいよ市内でも共働きのご家庭が増えてきました。多様な生き方、働き方の選択できる社会を目指したいですね。

4 一人暮らしの高齢者には 緊急医療情報キットの配布を求めます！

現在、65歳以上の高齢者は市内に27,234名で、そのうち8,398名の方がおひとり暮らしであることが、住民基本台帳で明らかになっています。地域ごとの「福祉の会」の皆さんによる「災害時要援護者支援事業」を通じて、地域での見守りやネットワークが作られはじめています。

▶「緊急医療情報キットの導入」単価312円

港区が東京都消防庁との連携で取り組みをはじめたこの事業は、かかりつけの病院、既往症や服薬歴、緊急連絡先などを明記したシートをキット（容器）に入れ、「冷蔵庫」に保管する決まりになっています。これによって、緊急時に迅速かつ適切な救命活動情報を得ることができ、救命率の向上にもつながります。

▶「緊急通報システム」の普及拡大

心疾患や心身機能の低下など注意が必要な方向けのペンダント型通報システムは、現状では市内で25台の普及。徘徊認知症高齢者の位置確認システムが、11台の普及です。

市民のみなさんへの周知をさらに徹底するとともに、ICTを活用した「見守り」のシステムを推進します。

救急医療情報キット



地区社協で取り組まれている「見守りシート」をそのまま入れて、たちまち「安心キット」のでき上がり！

多くの自治体で採用されているキットの一例。ギリシアの医学神アスクレピオスの杖をデザインした(Star of Life)は、世界共通の救急医療シンボルマーク。(全国高齢者救急医療キット協議会サイトより)

深田 貴美子 直通携帯電話

なんでもご相談ください！ ☎ 090-8025-4457